平成２５年度実績に関する監事の意見

平成２６年７月１４日
独立行政法人国立公文書館監事
佐藤　正紀

昨年度の監事監査において、歴史的公文書の保存の状況、利用者の利便が図られているか、公文書館の認知度を高める方策などについて監査を行いました。

公文書の保存については、昨年度、保存文書の劣化状況調査が行われ、今年度からそれに基づいた処置が講じられるなどしております。
利用者の利便については、土曜日の開館の試行が行われ、利用者の意見を調査しております。
また、公文書館の認知度を高めることについては、教育機関、教科書出版社などの関係者の見学会を催すなどの努力が見受けられます。

公文書館の業務は適切に遂行されていると判断しております。

しかしながら、公文書館の収蔵力の確保については、つくば分館に書架を増設するなどの処置により、平成３１年度末くらいまで満架になる時期を先延ばししておりますが、抜本的解決にはなっておりません。公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査検討が行われておりますが、早期に抜本的対策がなされることを期待しております。